

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103453		
法人名	社会福祉法人 夕凧会		
事業所名	グループホーム 夕なぎの家		
所在地	岡山市 東区 宿毛 745-3		
自己評価作成日	平成28年 2月 14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成28年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム夕なぎの家は、建物の4階部分にあります。とても眺めが良く、小高い丘には桜や桃畑が、周りには田園風景が広がります。ホールの中は明るく開放的で、常に季節が感じられます。広い敷地には、各種施設や診療所があり、安心して総合的なケアが受けられます。夕なぎの家の菜園では、季節の花や野菜を育て、おやつや食事に利用しています。職員は入居者一人ひとりの思いに寄り添いながら、のんびりゆったり一緒に楽しくをモットーに支援をさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各種の福祉関連施設の中にあり、関連施設全体の催し(夏祭りには新聞の折り込み広告が入り、屋台が登場し、2~300人もの老若男女でにぎわう大きなイベントとなっています)への参加など地域に密着したグループホームとして日々支援に取り組んでいます。建物の4階部分にあり、エレベーターを降りてからベランダまで厨房や居室が直線的に配置され、見晴らしの良い四季折々の眺望とともに、開放感があります。職員は長期就業者が多く、施設長が会うたびに声をかけ、福利厚生充実・資格取得への支援など恵まれた環境のもと、入居者一人ひとりの個性を活かすケアを実践し、チームで笑顔を引き出す取り組みを進めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に添い、地域密着型サービスの意義をふまえた理念になる様に作り、職員会議で話し合い実践に繋がられる様努力している。	人間の尊厳・地域の保健福祉を掲げた法人理念とともに、今年は「ここに来て良かったと言ってもらえるケアを目指す・地域との交流を深める・作業の効率化を図る」などを皆で話し合っ決めて、実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夕凧会の夏祭りやグループホームの外出、運営委員会などを通して、ふれあいを持つことが出来る様に努力している。	研修生の受け入れ、夏祭りや行事を通して、又地元出身の入居者が多く、通院・散歩・会議で顔馴染み(雑談が出来る間柄)で日常的な交流にも努めており地域との繋がりに取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの相談ごとや見学があり、宿毛診療所の地域連携室や居宅介護支援と連携しながら地域貢献に繋がっている。夕なぎの家も地域の入居者が増えた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、夕なぎの家の現状や課題、行事の報告など行い、会議で出た助言や意見などを大切に、ケアに活かしている。	入居者・家族・民生委員・老人会会長・地域包括支援センターなどの参加で開催し、状況報告や話し合い(災害対策など)を行い、サービス向上に活かしながら、2ヶ月ごとの定期開催を目指しています。	各種行事やイベント、又内外から講師を招くなど人が集まりやすい環境をつくり、情報発信しながら、2ヶ月ごとの開催に向けて取り組んでいかれることを期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や岡山市東区地域包括支援センターと連携を取りながら、不明な点や相談ごとなどで協力を得ている。	運営推進会議での話し合いや各種報告、疑問や終末期の緊急対応についての相談など、連絡を取りながら良好な協力関係が築けるように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故報告委員会を通して、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、玄関の施錠のみ行っている。	事故報告委員会で判断基準を示し、研修や会議で確認し、報道で取り上げられた最新の話題についても知識を共有し、日頃の言動に注意を払いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長より、権利擁護や、コンプライアンスルールの講習があり、新聞テレビなどから職員間でも話し合う機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する入居者がH26年度に1名おられたので、研修を持ち理解に努めていたが、すぐ使える様に今回も研修計画に入れた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて説明し、後で苦情につながらないように、理解や納得をして頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお手紙、電話で現状をお伝えし、意見要望などお聞きしている。あれば真摯に対応している。	面会が多く(お孫さんと談笑している姿を見かけ)、電話や便りで細やかに連絡を取り、運営推進会議で話し合い、意見や要望を聞き、日誌に記入して職員間で情報を共有し、ケアに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも気付いた時に、改善案や意見が言える雰囲気作りをしている。職員会議の場でも意見を出し合い、実践に繋げるよう努力している。。	施設長は「どうですか・何かありますか」と会うたび声をかけ、会議に毎回参加し、管理者の気配りが行き届き、職員の意見や提案をよく聞いており、反映させています。正規職員化や手当などの充実を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や上司は、向上心を持って働ける様配慮して頂けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を初め、資格取得の為の講習や報奨金など、職員を育てる為のシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問、勉強会などの交流はなくなったが、地域包括支援センターの職員さんから他事業所の取り組みを聞くことはあり、サービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや要望などに耳を傾け、これまでの生活と大きく変わる事の無い様、安心安全の提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望を傾聴し、真摯に対応し信頼を得る様、努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって、今一番必要な支援は何なのかを見極め真摯に対応出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の様な雰囲気の中で、残存機能や言動を大切にしながら、日々の生活に活かせるような支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いや願いを汲み取りながら、連絡を密にしケアに活かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の来訪や、遠方の親せきからの電話にでるなどで、馴染みの関係の継続に努めている。	散歩・通院時に顔なじみと出会い、家族・友人・知人・遠くの親戚が気軽に訪ねてきており、外出先にも周辺の名所などを選び、馴染みの人や場との関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の配膳下膳、菜園活動、創作活動、レクリエーションなどを通じて、一人ひとりが孤立することなく協力し、助け合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も会ったり声掛けが出来る様な、関係づくりが出来る様努めている。必要な時は助言、ケアカンファレンスに参加している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話から傾聴や共感することで希望や意向の把握に努め、本人本位のサービスに繋げる様努力している。	本人・家族との対話を心がけ、背景を知るとともに、納得や了解を得ながら、希望や意向の把握に努めています。個性を活かし、好きなことが継続できるように、笑顔につながる支援を目指しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や環境を把握し、これまでの経過に即したものとなる様、努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った暮らしが出来る様、カンファレンスを重ね支援に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとって、今一番必要な支援を職員間、家族、主治医の意見に基づき、介護計画がなされるよう努めている。	本人・家族・医療・職員・関係者それぞれの意見やアイデアを反映し、今必要な支援は何かを探り、「ここにおいて良かった」と思えるケアを目指して、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	わずかな気づきも職員間で共有し、介護計画に活かし、改善点があれば見直していくよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の多様なニーズに対し、他職種の助言などにより柔軟かつ丁寧な対応が出来る様、努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や外出など地域資源を活用し、気分転換を図るなど豊かな暮らしづくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、主治医、事業所の良い関係づくりが出来ていると思う。これからも連絡を密にとり、適切な医療を受けられる様努力する。	関連の医療機関が隣接しており、通院するとともに、定期的な往診や夜間・緊急時の対応が可能で、従来のかかりつけ医との連携が保たれており、納得が得られた適切な医療を受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	感染症委員会への参加、入居者の急変時の助言、感染症予防の講習の機会を通して、協力体制が出来ている。今後も連携を取り、適切な受診につながる様努力していく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、協力病院、事業所間の連携により、情報交換や相談を行い、早期に退院が出来る様に今後も努力していく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	要望があれば、家族や職員、主治医、栄養士と話し合いを重ねて、面会時、手紙、電話などで現状をお知らせしながら、できるだけ希望に添えるように支援していく。	高齢化(平均89歳)や重度化が進行し、終末期への対応が大きな課題となっています。関連施設が整備されていますが、現在の生活の継続を希望される方もあり、関係者とともに最期まで支援する覚悟で臨んでいます。	重度化や急変時に対応できるように、知識や技術を習得し、希望にそいながら、家族・医療・関係者とともに、これからもチームで支援していかれることを期待しています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、救命救急研修を受ける、主治医と連携を取る、事故報告委員会へ参加するなど、危機管理意識の徹底を図る様努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を行っている。H28年3月11日午後2時より、南海トラフ大地震を想定しての、夕凧会全棟で避難訓練を行う予定。	運営推進会議で話し合い、災害時には避難場所としての受け入れを要請されています。今月、南海トラフ地震を想定しての避難訓練を計画しており、地震・津波・がれきなどへの対策も検討するとのことです。	何時、どのような災害が起こるのか、様々な場面を想定して皆で話し合い、準備・点検・整備・訓練をするとともに、地域との協力体制を築いていかれることを期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権擁護の内部研修や、法人の理念『人間の尊厳を守る』を職員会議で確認し、個人のプライバシーの尊重に努めている。	その人らしい尊厳ある姿を大切にし、納得し、了解してもらいながらの支援に努めています。一人ひとりの趣味や個性に配慮した、丁寧な言葉かけや対応がなされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で寄り添い傾聴し、本人の思いの表出や、自己決定が出来る様な支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格、趣味嗜好など考慮し、できるだけ本人のペースに合った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めや化粧品の購入の要望、髪型、服選びなどその人らしさが保てる様、支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入れ歯の調整や、誤嚥体操、下膳配膳の手伝いなどし、食事が楽しみになる様な支援に努めている。	昼食は階下の厨房で調理され、朝・夕食は手作りしており、菜園の野菜を献立に取り入れ、準備・片付けを一緒に行い、皆でテーブルを囲んでいます。行事食やおやつ、喫茶なども楽しんでいるようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや嚥下状態など考慮し、主治医や栄養士の助言を取り入れながら、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが、一人ひとりの口腔内の状態に合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンの把握に努め、声掛けや誘導をしており、夜勤帯のみ2名おしめの方がいる。	排泄パターンを把握して、観察しながら声かけ誘導し、日中はできるだけトイレでの排泄を心がけ、立位保持への改善が見られ、自立に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ、ヨーグルト、サツマイモなどの食材を食事やおやつに取り入れたり、運動や漢方薬、下剤の服用などで早めの排便を促す様支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否が多いが、声掛けの工夫やタイミングをずらしたり、日にちを変える、入浴剤を入れるなど、柔軟な対応に努め、入浴が楽しめる様な支援に努めている。	拒否者には、診察前の入浴を勧めたり、散歩の後汗を流そうと声をかけたり、入浴剤を入れるなど工夫をしながら、入浴が楽しいものとなるよう、タイミングに合わせ、個々にそった支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早起きの入居者が多い為、昼食後に休憩時間を取ったり、自宅で使用していた毛布、ラジオ、クッションなど使い、安眠につながる様な支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者からの薬の質問には誠意をもって説明している。服用後の変化など見逃さず、主治医に報告し、指示を仰ぐ様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中で、一人ひとりが残存能力を活かして関わり合い、その中から生きがいや喜びが感じられるような支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力により、自宅や親せきの家に外泊できたり、季節ごとの花見やホテルでのお茶、初詣など地域に出掛けている。	散歩・通院・ゴミ捨てなどで戸外に出かけ、家族とともに外出したり、2ヶ月ごとの近郊へのドライブでは、梅・さくら・紅葉見物、初詣、海を見ながらホテルでお茶、みかん狩りなど支援しています。今年度は公共施設をめぐる計画を立てているとのことです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者はお金は持たないが、要望があればいつでもどのようなことにでも使える様な支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くの親類や知人からの電話や手紙に、本人と共に誠意ある対応が出来る様努めている。いつまでも良い関係づくりが保てる様、職員は年賀状、暑中見舞いなど作成の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、落ち着いたある色彩で整え、季節の花や、季節ごとの外出の写真を飾る様にしている。菜園で花を育てたり、季節を感じさせるおやつや食事の提供、音楽を聞いたり歌ったりなど工夫している。	リビングには季節飾りや生け花があり、写真が貼られ、清掃が行き届き、LED照明に取り換えられた室内は明るく開放的で、4階建の最上階にあり、広い屋上テラスへと続いており、四季折々の素晴らしい眺めに囲まれ、居心地よく過ごせる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの好みの場所があったり、気の合う入居者同士で思い思いに過ごせる様な配慮に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の意見を取り入れ、安全で動きやすい家具の配置、壁には思い出の写真、花など飾り居心地良く過ごせる様に努めている。	居室には手洗いの設備があり、清潔保持に役立っています。個々の生活スタイルや好みを活かしながら、飾りつけや家具を配置し、本人が落ち着いて過ごせるように配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、トイレの中の便座まで続く手すり、浴槽内の滑り止めマットなど、安全で自立した生活が遅れる様に努力している。		